

平成25年度高知県学力定着状況調査の公表に係る県教育長のコメント

平成26年2月13日

1月9日に実施しました「高知県学力定着状況調査」の結果を公表いたします。

本調査は、これまでの学力調査結果から明らかになった小学校中学年の二極化や中1ギャップによる学力低下など、本県の子どもたちの様々な学力課題を解決するために実施しております。2回目の実施となる本年度は、調査学年を1回目の小5、中2に加えて、小4、中1も対象として実施しました。

調査問題は、各教科の知識や技能を問う問題や、それらを活用して考えたり表現したりする力を問う問題で構成しており、子どもたちの学習の定着状況を把握するとともに、学習指導の充実や指導方法の改善に生かし、学習内容の確実な定着を図っていただきたいと考えております。

また、各教科の基礎的・基本的な力として、文章などを読み解く力や自分の考えを書く力が求められており、どの教科にも、調べたことをレポートにまとめたり、考え方を交流したりするなどの言語活動の場面を調査問題の中に設定しています。根拠を基に自分の考えを書く、説明する、話し合うといった主体的な言語活動を通して、各教科に求められる思考力・判断力・表現力等を効果的に育成することが大切であるという授業改善へのメッセージを込めています。

今回の調査結果から、国語の表現の技法や算数・数学の用語の意味理解など、基礎的・基本的な知識や技能の定着においては改善傾向にあり、指導改善のポイントを押さえた取り組みがなされていることがうかがわれます。

しかしながら、複数の資料を関連付けて読み取ったり、根拠を明らかにして自分の考えを書いたりすることなどには前回調査に引き続き課題が見られます。

これらの課題解決に向けて、単元テストや学習シートなども効果的に活用しながら各教科における指導方法の改善や質の高い授業づくりを進めていくことが大切です。加えて学校全体でことばの力を育成することを重視し、これらの取り組みを「学校経営計画」に位置付け、組織的に改善を図っていくことが求められます。

各学校や市町村教育委員会においては、本調査結果を分析して、課題の焦点化と課題解決のための対策の具体化を図るなど、本調査を効果的に活用していただき、子どもたちの学力向上をより確かなものにしていただきたいと思います。

県教育委員会としましては、市町村教育委員会と連携を一層強化するとともに、保護者や県民の皆様のご理解やご協力を得ながら、本県の子どもたちが将来に夢を抱き、志を育み、社会を生き抜く力を身に付けることができるよう、学力向上の取り組みをさらに充実させてまいります。

高知県教育長 中澤 卓史